

第3章

基本方針と緑の目標水準

- 1. 基本方針 50
- 2. 計画フレーム 51
- 3. 緑の目標水準 51



緑化功労者表彰

都市緑化月間の一環として公園緑地等の清掃や除草などのボランティア活動を継続的に行う団体、個人に感謝状を贈呈しています。市民のみなさんが主体となった美化活動は協働のまちづくりの取組みとして重要であり、平成9年度からスタートし、令和2年度までに延べ441団体等を表彰しています。

第3章 基本方針と緑の目標水準

1. 基本方針

本市はこれまで、公園・緑地の整備等により「量の充足（まちの緑を増やす倍）」を進めてきました。しかし、社会情勢の変化に伴い、緑には多様なニーズへの対応や持続可能な都市づくりへの寄与等、「質の向上」が求められています。

そのため本計画では、前計画の基本方針「緑をつくる」を「緑を活用する」に展開し、“既存の緑が有する多機能性の活用”を進めます。なお、基本方針、「緑を守る」「緑と共に生きる」は変更せず、引き続き目指していくものとしますが、市民、企業、行政等が一緒になって緑のまちづくりを進めていくことを強調するため、「緑を守る」は「緑を共に守る」、「緑を活用する」は「緑を共に活用する」に進化させ基本理念及び緑の将来像の実現を目指していきます。

緑を共に守る

本市の緑の骨格を形成する本市東部の三池山、大間山を中心とした山々、甘木山から黒崎にかけての丘陵地、河川沿いのまとまりのある農地の保全に努めます。ただし、総合計画等上位計画で位置づけられた開発については、自然環境との調和を図りながら進めます。

東部の山々については、保全を図りながら、自然探索等の自然との接触機会を増やすための拠点整備に努めます。



緑を共に活用する

本市はこれまでに整備してきた公園や緑地のストックが十分にあります。そこで前計画の「緑をつくる」の方針から「緑を共に活用する」に転換し、既存ストックの有効活用を目指します。

緑を活用する際には、ユニバーサルデザインの視点にたち、高齢者から子ども、障害者まで全ての人々や自然にやさしい空間づくりに努めます。このような基本的な考えのもと、公園等の整備・活用においては、市街化区域を中心とした身近な公園の適正な配置、既存の公園についてニーズに応じた再整備等を進めるとともに、地域の拠点となる公園の充実、市民に親しまれる公園の整備等に努めます。



また、都市は住宅地、工業地、商業地等の様々な社会経済活動の場で構成されていますので、それぞれの場所に合った花や緑の効果的な配置により魅力的な空間を創造し、本市のイメージアップを図るとともに、道路や河川の緑化により多様な緑をつなぎ、緑のネットワーク化に努めます。

緑と共に生きる

公共公益施設、住宅地、工業地、商業地等の緑化や、大半を占める民有の樹林地を保全していくためには、市民、企業、行政等のパートナーシップの構築が求められます。また、省資源化等の環境保全の観点で緑の資源化、環境教育の推進等が求められています。

そこで、市民参加機会の拡充や緑化の支援、緑の資源化やリサイクルの推進等により、緑と共に生きる施策を展開していくための基盤をつくりあげます。



2. 計画フレーム

ここでは、緑の基本計画の基礎条件となる計画対象区域、人口の見通しについて示します。

(1) 計画対象区域

計画対象区域については、都市計画区域を対象とします。

計画対象区域	面積
大牟田市全域	大牟田市都市計画区域 (8,145.0ha)

出典：大牟田市都市計画基礎調査（H29）

(2) 人口見通し

本市の将来人口については、以下の通りとします。

	実績値	推計値			
年次	平成 27 年	令和 2 年	令和 7 年	令和 12 年	令和 17 年
人口	117,360 人	110,661 人	103,670 人	96,535 人	89,400 人

出典：国勢調査（H27）、国立社会保障・人口問題研究所資料（H32～47）

(3) 市街化区域と市街化調整区域の規模

本市の市街化区域と市街化調整区域の規模については、以下の通りです。

区域	面積
市街化区域	3,874.0ha
市街化調整区域	4,271.0ha

出典：大牟田市都市計画基礎調査（H29）

(4) 地域区分

都市計画マスタープランの地域別構想で設定する地域区分を採用します。

地域区分	人口（令和 2 年 12 月）	公園数	公園面積
吉野地域	13,945 人	45 箇所	9.78ha
手鎌地域	13,358 人	35 箇所	28.10ha
三池地域	28,175 人	69 箇所	12.86ha
中央地域	29,377 人	16 箇所	24.13ha
三川地域	12,246 人	30 箇所	23.43ha
勝立・駛馬地域	14,939 人	49 箇所	24.35ha
合計	112,040 人	244 箇所	122.65ha

出典：大牟田市住民基本台帳人口（R2.12）、公園調書（R2.3.31）

3. 緑の目標水準

緑の将来像で示した望ましい姿の実現に向け、一定の目標を定めることにより、本計画に定める施策の計画的な実施を図るために設定するものです。目標水準の設定にあたっては、基本方針ごとに目標を示し、目標年次の令和 22 年度までに達成することを目指します。また、定量的な指標のみでは達成度を検証しにくい場合もあることから、市民が緑にどれだけ満足しているかという生活実感からみる指標を加え、多面的に評価を行うものとします。

【緑を共に守る】 緑の目標1 豊かな自然を市民と共に後世に残していく

指標 緑地の面積、緑の量及び質

都市計画区域の緑地率は、52.7%（4,294.0ha）です。なお、市街化区域の緑地率は6.8%、市街化調整区域は94.3%であり、山林や農地等の自然的土地利用を中心として緑が確保されています。また、市民の緑に関する満足度については、約8割の市民が緑の量が多いと感じています。しかし、緑の質については、約5割の満足度となっています。

そこで、本計画では、山林の荒廃を防ぐための適切な維持管理や、農地の保全・活用等に取り組むことで、山林や農地の保全を図るとともに、市民との協働による緑の整備活用により、都市計画区域全体として、現状程度の緑地維持を目指します。そして、市民の緑に関する満足度を量・質共に高める事を目指します。

項目	現況	目標年次 令和 22 年
市街化区域の緑地面積	264.5ha（6.8%）	264.5ha
市街化調整区域の緑地面積	4,029.5ha（94.3%）	4,029.5ha
都市計画区域の緑地面積	4,294.0ha（52.7%）	4,294.0ha

※現況の数値は大牟田市都市計画基礎調査（平成 29 年）を基に作成

項目	現況	目標年次 令和 22 年
緑の量に満足と答えた人の割合	77.4%	現状以上
緑の質に満足と答えた人の割合	54.5%	70.0%以上

※現況の数値は「大牟田市緑の基本計画の見直しに関する市民意識調査」（令和 2 年）の結果を基に作成しており、評価項目の満足とは、“満足”または“どちらかといえば満足”と回答した割合としている。

【緑を共に活用する】 緑の目標2 市民のニーズに適応した公園を充実させる

指標 緑の満足度

現在、約 5 割の市民が、歩いて行ける身近な公園について「満足」と感じています。また、本市を代表するような大規模な公園については、8 割を超える市民が「満足」と感じています。しかし両公園ともに「除草清掃等の管理の徹底」等、管理の問題点が指摘されています。

そこで、本計画では、これまで整備してきた公園や緑地のストックを適切に管理活用していく取り組みを進め、公園における満足度の向上を目指します。

項目	現況	目標年次 令和 22 年
身近な公園の満足度	55.0%	70.0%以上
大規模な公園の満足度	82.8%	現状以上

※現況の数値は「大牟田市緑の基本計画の見直しに関する市民意識調査」（令和 2 年）の結果を基に作成しており、評価項目の満足とは、“満足”または“どちらかといえば満足”と回答した割合としている。

【緑と共に生きる】 緑の目標3 市民と共に緑を育む活動を広げる

指標 緑に関する活動への参加率

現在、市民の約 7 割が地域の清掃活動や花壇づくり等の緑化活動に参加しています。そこで、本計画では、市民が主体的に緑を守り活用する仕組みづくりに努め、さらに多くの市民が日々の生活・余暇やボランティア活動等を通して、協働の緑のまちづくりを目指します。

項目	現況	目標年次 令和 22 年
緑のまちづくりについて、何か行ったことがあると答えた人の割合	69.9%	現状以上

※現況の数値は「大牟田市緑の基本計画の見直しに関する市民意識調査」（令和 2 年）の結果を基に作成